Will

TOKUSHIMA KENSHOKAI COLLEGE OF HEALTH AND WELFARE



徳島健祥会福祉専門学校 同窓会会報｜ウィル

同窓生ロングインタビュー

「技術がどんなに進展しようと、リハビリの原点は心、そして信頼関係」

徳島健祥会福祉専門学校同窓会　副会長 **池村 健さん**

MESSAGE

徳島健祥会福祉専門学校の原点と特徴 …… 2
徳島健祥会福祉専門学校 校長 武田 英二

変化と不確実性の時代、専門性を武器として …… 3
健祥会グループ 理事長 中村 太一

創立20周年を記念して盛大に！同窓会総会 6
「ロボットスーツHAL®福祉用の現状と医療用への展開」
CYBERDYNE株式会社 HALメディカル領域 担当部長 若松 浩二さん

同窓会懇親会 …… 7

同窓会総会 2016　同窓会4学科講習会 …… 8

＋UPDATE　4学科卒業生近況報告 …… 10

同窓会勉強会報告 …… 12

学校祭 …… 14
BE TOGETHER AS ONE!!　～絆を深め合う未来のために～

NEWS …… 15
NEW FACE｜新教員紹介 etc...

2017 MARCH VOL.10



MESSAGE



変化と不確実性の時代、専門性を武器として

健祥会グループ
理事長　中村　太一

1996年 東海大学教養学部生活学科生活経済学課程卒
2013年 健祥会グループ理事長に、2015年 むくの木クリニックを経営する医療法人青風会理事に就任。2016年には社会福祉法人緑風会の理事長に就任し、グループ4社福祉法人すべての理事長となる。また、2016年11月徳島商工会議所第25代会頭、徳島県商工会議所連合会会長、日本商工会議所総合政策委員会委員に就任。徳島県総合計画審議会委員や徳島市まちづくり総合ビジョン市民会議委員、徳島県労働委員会使用者委員、徳島地方最低賃金審議会委員など多くの国・県・市の審議会委員や委員会の委員を務める。徳島県ゲートボール協会会長、公益財団法人日本ゲートボール連合四国地域協議会会長、公益財団法人日本ゲートボール連合評議員としてゲートボールの普及に携わっている。

日本は少子高齢社会を迎えており、社会を支え発展させる若者の活躍が強く期待されています。本校創始者中村博彦の建学の精神は「福祉は人 人は心」であり、やがて来る高齢社会では、老人福祉が行政施策の中で最も重要な課題となるであろうこと、福祉専門職を養成する必要性があること、さらに社会には、高度な知識・技術を持ち、人間の尊厳を重視する福祉スペシャリストが求められていることを言明していました。そこで、創始者の思いと将来の本校発展のための人材育成方針を、「礼儀と感謝を実践し、保育、医療、介護の知識・技術を知恵に変えることができる現場力を有し、ダイバーシティの観点を持った『心と心を繋ぐ人材』を育成する」こととしました。

2）専門学校の特徴

本校の最大の特徴は、クリニックおよび多数の高齢者介護施設を擁する（社）健祥会グループに属していることで、学生の実習をはじめ人材育成にグループが一丸となって取り組んでいただけることです。しかし、この取り組みが外部から明確に見えなければ大切な財産を活用できていないことになります。施設での実習は指導者に委ねられていますが、指導者の指導方法や学術レベル、専門職および人間としての魅力、専門学校教員との連携などが必要です。学生に対する厳しい指導の中で誰もが納得できる優しさや実力が必要です。私達は健祥会グループや同窓会と協力して、本当の意味で次代の人材を育成する体制を構築しなければならないと考えています。

3）専門学校の飛躍

本校では介護現場と連携して「筋肉量評価によるサルコペニア・フレイルティー予防法・治療法開発に関する研究」を行っています。高齢者施設のご協力のお陰で24時間の畜尿により筋肉量の評価をすすめています。一人で歩行が可能な筋肉量、介助が必要な筋肉量、杖や歩行器が必要な筋肉量が明らかになりつつあります。結果の活用法ですが、まず（1）介護方法を選択するときの科学的根拠として、また利用者の状態を家族に説明するときの資料として活用できます。こんなに筋肉量が少なくて、いつ倒れても仕方がない親を介護していただいている感謝の気持ちが示されます。次に、（2）筋肉量が減らないように、増やすようにするための栄養補給や運動を提案できます。さらに、（3）高齢者が倒れたときでも、ギリギリまで介護していただいた結果であり、家族の理解が得られ介護者を非難から守ることができます。このように、筋肉量を知ることは、高度な科学的介護やリハビリテーションに結びつくと確信しています。

専門学校はグループの学術部門として、また同窓会の皆様には何でも相談できるプラットホームとして活用していただき、ともに発展できることを期待しています。



徳島健祥会福祉専門学校の原点と特徴

徳島健祥会福祉専門学校
校　長　武田　英二

1974年3月 徳島大学医学部医学科卒
徳島大学医学部付属病院、高松市民病院、米国インディアナ大学医学部などを経て、1992年より徳島大学医学部教授（病態栄養学）。栄養学科長、徳島大学病院「食と健康増進センター長」、21世紀COE「ストレス制御をめざす栄養科学」拠点リーダー、国立大学法人徳島大学大学院教授（臨床栄養学部門）、同大学教育研究評議員などを歴任。2014年4月 徳島健祥会福祉専門学校 校長に就任。
学位／医学博士（徳島大学）
受賞等／1988年 康楽賞（財団法人康楽会）・1998年 日本ビタミン学会賞・2004年 日本栄養・食糧学会賞

1996年の創立以来、20年余の間に本校と卒業生諸氏を取り巻く環境はめまぐるしく変化してきました。今、「一億総活躍」を支える専門職として介護職や保育士の処遇改善は少しずつすすみ、リハビリテーションにも非常に重きが置かれるようになっています。介護・医療現場でのICTの推進により、業務の効率化や職員の負担軽減の動きも加速しています。

一方で財政健全化計画のもと、社会保障関係費の伸びの抑制と負担増の施策が矢継ぎ早に打ち出されています。皆さん方の現場でも、一昨年の介護報酬の大幅ダウンと現場のニーズを無視した制度改正や、昨年の診療報酬改定による総量での2回連続の引き下げなどにより、厳しい運営を迫られてきたことと思います。そして今年は、2018年の診療報酬と介護報酬の同時改定に向けての議論が始まります。

医療も介護も保育も、制度内ビジネスである限り、制度に左右されるのは致し方のないことですが、決してそれに翻弄されることのないよう、常にアンテナを高くしっかりと情報収集しながら、目の前の患者さん、利用者さん、子どもたちによりよいサービスを提供することを第一義として頑張っていただきたいと願っています。

人口減少は予想を上回るスピードですすみ、昨年出生数がはじめて100万人を割りました。2009年以降横ばいで推移している18歳人口は、ほどなく毎年減少に転じると推計されています。本校でも社会人入学生が増えてきているように、高校生だけに焦点を当てるのではなく、様々な社会のニーズに的確に応え得る態勢の構築に注力しているところです。介護、医療、保育、障がいといった様々な種別の現場直結の教育環境と、教師と学生の絆、在学生への手厚い教育はもちろん、卒後教育の充実といった本校ならではの強みを存分に発揮し、皆さんが母校として誇りに思っていただける徳島健祥会福祉専門学校であり続けられるよう、未来を見据えた戦略的経営を推進してまいりたいと思います。

教員も自ら学びながら質のアップを図り、教育内容を強化するとともに、クリニック・施設・専門学校の協力連携のもと、科学的な数値を意識した介護・リハビリの実践と研究活動を推進し、新たな価値の創出と研究成果の社会への還元をめざします。

変化と不確実性の時代には、専門性こそが武器となります。同窓会会員諸氏には、本校を専門性の拠り所とし、同窓会を切磋琢磨する場としてどんどん活用していただき、本校を介しての交流と学びをそれぞれのレベルアップにつなげていっていただきたいと念願します。各所での卒業生の皆さんの頑張りを嬉しく、誇らしく思っています。ますますのご活躍を祈念いたします。



技術がどんなに進展しようと、リハビリの原点は心、そして信頼関係。



徳島健祥会福祉専門学校同窓会 副会長
池村　健さん　43歳（理学療法士）

徳島大学工学部を卒業後、電気・機械系の企業に就職。2002年、28歳で徳島健祥会福祉専門学校理学療法学科入学。2005年、卒業と同時に理学療法士として平成医療福祉グループに入職し、現在は、リハビリテーション部門を統括するリハビリ部長として1000人にものぼるリハビリ職を束ね、グループの戦略をマネジメントする。
リハビリのプロとなって12年。「絶対に見捨てない医療と福祉」を理念として掲げ、手厚いリハビリテーションが持ち味の平成医療福祉グループで、池村さんはリハビリ部長として、何を思い、何をめざしてきたかを問うた。

徳島市勝占町、里山の懐に抱かれるように佇まいする博愛記念病院。関東、関西、中四国、9都府県において、医療施設、高齢者施設、障がい者施設、専門学校など、多種多様な施設を多数展開する平成医療福祉グループのルーツであるこの病院に、徳島健祥会福祉専門学校理学療法学科3期生、池村健さんを訪ねた。

なぜ理学療法士をめざしたのですか？

大学卒業後に勤めた会社で機械と向き合って数年を過ごすうち、このままでいいのかなという疑問と、本当は人に関わる仕事がしたかったんだという思いがだんだん膨らんでいました。そんなとき、大学の同級生とたまたま飲む機会があり、そうしたらなんと彼も転職を企てていた。しかもすでに徳島健祥会福祉専門学校への入学を決めていて、私にもすすめるんです、「リハビリ職はこれからいいぞ」って。医療も高齢者福祉もまったく未知の世界でしたが、真剣に考えてみると、高齢化がどんどん進む中、確かに将来性があると思いましたし、まさに、望みであった人と関わる仕事でした。ほんとにひょんなことから一気に理学療法士モードになってしまい、ギリギリセーフで最終試験の出願に間に合い、この道にすすむことになったんです。彼がいたから今の僕がある、人とのつながりの不思議を感じます。そして人生を変えるきっかけをくれた彼には感謝しています。

いまはマネジメントするお立場ですね

卒業後、平成福祉グループに入職し、博愛記念病院での勤務、淡路島での勤務、連携病院である徳島赤十字病院での学びの期間などを経て、東京での施設の立ち上げにもかかわってきました。急性期から在宅まで、幅広く経験を積ませていただきながら、患者さんに成長させてもらってきたというのが実感です。
今は管理業務の比重が高くなっていますが、いちばんすきなのは現場、患者さんとの一対一のかかわりです。
もちろん、管理業務もやりがいがありますし、研修会などを通じて新しい情報に触れたり、全国のセラピストたちと出会えることは、刺激と学びの源泉になっています。また、スタッフが動きやすいシステムをマネジメントすることで、患者さんのためになっていることが実感できるのもうれしいです。
各地の施設をまわったり、様々な研修会や勉強会にも呼んでいただいたり、全国を飛び回っているのですが、でもどんなに忙しくても、週に1日は現場に出るようにしています。
現場でこそ見えてくることがありますし、私が若いスタッフに見せられるものもあります。技術では、もしかしたら若い才能に追い越されているかもしれませんが、患者さんにどう関わり、心通わせて行くかという点では私から学んでもらえることがあるはずです。技術以前にあって、そして技術を根っこで支えるハートの部分を成長させてほしいと思いつつ、現場に出ています。







平成医療福祉グループはロボットの導入に積極的だ。同窓会総会でも紹介されたロボットスーツHAL®を2012年から導入している。こうした新しい動きもリハビリテーション部長として池村さんが牽引する。HAL®を使ってのリハビリを見学させていただけることになり、庭の木々と山の緑を映す窓から明るい日差しがたっぷり注ぐ広々としたリハビリテーション室へ。スペースのあちらこちらに様々な機器が並び、患者さんは担当のリハビリ職とともにそれぞれのメニューに励んでいる。その一角で、2人の理学療法士の指導のもと、四肢麻痺の通院患者さんに下肢タイプのHAL®FL05を装着しての歩行訓練が行なわれている。

HAL®の力をどう評価していますか？

HAL®は患者さんの生体電位信号を読み取り、それに応じて下肢を補助し、患者さん自身の脚による歩行や立ち座りをアシストします。四肢麻痺の方が1年で歩けるようになるといっためざましい成果をあげており、患者さんに大きな希望を与えてくれています。
HAL®は医療機器なので、講習を受け、試験をパスして初めて使うことができます。現在60名ほどがその資格を取得しています。8種類の指定難病にしか保険が適用されませんが、当院では必要な方には指定の疾患でなくても通常のリハビリテーションメニューのひとつとして利用していただいています。

専門職の技とロボットはどう共存するのですか？

ロボットの力は素晴らしいと思います。私たちにできなかったことを科学の力で可能にしてくれる。しかし、あくまで一手段、選択肢の一つだと思っています。うまくすれば驚くような効果が得られる反面、適応できない患者さんもいらっしゃいます。またHAL®が力を発揮するのも、サポートするリハビリ職と患者さんとの信頼関係があってこそ。技術がどんなにすすんでもその技術を使うのは人であり、リハビリの原点は心です。

本校の同窓生が多いと聞いています

博愛記念病院には徳島健祥会福祉専門学校の卒業生が、30名ほど在籍しています。今、HAL®をサポートしている2人も同窓生なんですよ。とても心強いし、みんな頑張ってくれています。安心して任せられるスタッフが育ってくれていると実感できるのは本当にうれしいですね。
徳島健祥会福祉専門学校は、学生同士、また、先生と学生のつながりが強く、卒業後の関わりも深い。先生たちが紡いできてくださった伝統だと思います。こんな私でも慕って入職してきてくれる後輩がいるのは、有難いですし、私にとって学校はいつまでも大きな存在です。

平成医療福祉グループでは、池村さんの陣頭指揮の下、患者さんの尊厳保持のためのアプローチがすすめられている。排泄リハ、嚥下リハ、ロボットリハなどのチームをつくり、スキルを共有しながら、データを集積。離床促進とフレイル対策をマニュアル化し、患者さんに還元しようというものだ。
「人の傍で人と共に、目標に向かって歩む人生」をめざして飛び込んだ道。池村さんはまだまだ道の先に理想を描き続けている。



理学療法学科の
同窓生4人が揃って
右から
大寺誠さん（4期生）
高橋麻衣子さん（4期生）
池村健さん（3期生）
木下大蔵さん（3期生）

取材協力：博愛記念病院/平成医療福祉グループ
770-8023 徳島市勝占町惣田9

記念講演

「ロボットスーツ HAL®福祉用の現状と医療用への展開」

CYBERDYNE株式会社　HALメディカル領域　担当部長 若松　浩二さん

「HAL®とは、『Hybrid Assistive Limb®』の略。Hybridは、人間の意思に従って動く『随意制御』とロボットが自律的に動く『自律制御』の2種類の制御方法の混成という意味であり、同時に身体と機械、人間とロボットの融合という意味も込められている。つまりHAL®は、人とつながり、人と一体化したロボットだ。

動こうという意思を持ったとき、脳からは生体電位信号が発せられる。その信号が運動ニューロンを通じて動かそうとする部分の筋肉に伝えられることで、腕や脚が動く。しかし、障がいのある方は信号が発せられても筋肉が弱っているために動かすことが難しい。その弱っているところを補う働きをするのが『随意制御』。皮膚に取り付けたセンサーが皮膚の表面の微弱な信号を読み取り、腰に付けたコントロールユニットのコンピュータが瞬時に解析し、パワーユニットを制御しながら脚や腕を動かす仕組みだ。

『自律制御』では、あらかじめ人間の動作の情報をインプットしておき、装着者の動作よりもほんのわずか先に情報を読み取り、動きをスムーズにするために手助けをする。

この2つの制御により、装着者の意思に沿った動きをアシストしたり、普段より大きなチカラを出すことが可能になるのだ。『自分で脚を動かせた』という、ありありとした感覚をもたらし、さらに、脳・神経系への運動学習を促してくれる」

若松さんから、HAL®の仕組みについての説明のあと、ロボットが産業用から生活支援へと大きな可能性の広がりを見せ、人々に希望をもたらしている現状が紹介されました。現在福祉用は全国250施設でレンタル方式により500体が稼働しているとのこと。麻痺して動かなかった脚が動き、立ち上がる、歩けなかった人が歩ける、階段も昇り降りする･･･そういう光景が映像で紹介され、会場は驚きと感動に包まれました。



会場では実際に、HAL®介護支援用（腰タイプ）を装着体験させていただけることとなり、3人の同窓生が壇上へ。1～2分で装着が可能であり、作業の妨げにもならず、脊柱起立筋を補助し、負担を軽減してくれるHAL®の威力を体感しました。香川県では100台が医療介護施設に配備され、離職率の改善に寄与しているとのこと。HAL®は患者様のためだけでなく、介護職のためにも大きな希望をもたらしてくれています。

CYBERDYNE社は、2004年筑波大学発のベンチャー企業。ロボットスーツHAL®の開発とその社会実装に取り組んでいる。2013年、HAL®医療用（下肢タイプ）で、医療機器としてのCEマーキング（CE0197）を、ロボット治療機器として世界で初めて取得。2014年にはHAL®作業支援用（腰タイプ）およびHAL®介護支援用（腰タイプ）に対する生活支援ロボットの国際安全規格ISO 13482認証を、作業者向け装着型ロボットとして世界で初めて取得する。2015年、HAL®作業支援用（腰タイプ）もCEマーキングを取得するなど、世界の装着用ロボットのリーディングカンパニーだ。

創立20周年を記念して盛大に!

～平成 28 年度～

徳島健祥会福祉専門学校 同窓会総会

2016/5/22（MON）
徳島グランヴィリオホテル

年に1度の同窓会総会が、創立20周年を記念して盛大に開催されました。校長・同窓会長挨拶に続き、議事が滞りなく進行。
話題のロボットスーツHAL®が登場した記念講演で最先端情報に耳を傾けたのち、恒例の4学科講習会で学び、懇親会で旧交を温めました。

ミッションを明確にして厳しい時代に立ち向かう!

学校長　武田 英二　挨拶



学校長　武田 英二

少子化の影響を受け、18歳人口はますます減少しており、今後おびただしい数の大学が消滅していくと言われています。そうした社会情勢のなかで、本校のあるべき姿、ミッションを真摯に検討し、教育方針を定めました。

私たちに求められているのは、●「学生自らが成長したいという気持ちを持って学び、成長するための支援」●「知識や技術を基盤に、知恵にあふれた現場力の構築への支援」であり、そのために●「しっかりとした挨拶を身につけさせる指導」●「オンとオフを区別した学習の獲得」●「アクティブラーニングの技法を取り入れた講義」を実践しています。もちろん教職員も自らのレベルアップを図ってまいらねばなりません。

本校が同窓会とともに発展するためにも同窓会の皆様には専門家としての腕を磨き、活躍し、高い評価を得ていただきたいと思います。また学校運営や人材育成のあり方について、意見や情報をどんどんお寄せいただき、この難局を乗り越えていきたいと思います。（要約）

話題のロボットスーツ HAL®登場!

今、少子高齢化の中で、日本が抱える人手不足やサービス部門の生産性の向上という課題の解決のための切り札として、様々な分野でロボットに大きな期待が集まっています。医療介護の現場で、リハビリに、また介護職のアシストに、そして入所者さんの見守りに、多くの可能性を拓いてくれているロボット。同窓会総会記念講演では、世界をリードする技術、CYBERDYNE株式会社のロボットスーツHAL®の現状と可能性について、300名の同窓生が興味津々で耳を傾けました。



賑やかに、心和むひとときを楽しんで!

同窓会活動を核として、情報の共有や相互研鑽が促され、専門職としてのキャリアアップにつないでいけるように。また、横だけでなく縦のつながりも大切にし、職においても人生においてもその幅をひろげていけるように。そんな思いで開催する同窓会懇親会。今年は、初代学校長・碓井俶司先生をはじめ、懐かしい14名の恩師にもご出席いただき、同窓生200名の参加を得て盛大に開催されました。先生方には近況とあわせて本校への思い出を話していただき、懐かしさもひとしお。楽しい時間の最後は豪華賞品いっぱいのゲームで盛り上がりました。参加できなかった皆さん、来年はぜひ！















同窓会4学科講習会　現場からの貴重な報告に耳を傾けて

■介護福祉学科

介護福祉士の専門性とモチベーションを保つ方法
～求められる感性とは～



講師 **山田 朝日** さん

株式会社 万葉福祉会　取締役

介護を行う過程では、基本的に「根拠（エビデンス）」が求められます。たしかに、目標に向かって理論立てながら根拠のある支援方法を考える作業は不可欠です。ただ、日常生活は言葉にできないもので溢れており、すべての出来事に根拠を持って行動することは不可能です。

介護福祉士は仕事の中で往々にして、言葉にし難いものに出会います。一番わかりやすいのは「生」「死」です。「なぜ死なければいけないのか」「何のために生きているのか」といった問いには、明確な答えがありません。でも、高齢者介護で看取りに立ち会うとき、私たちはその問いに向き合い、そういった状況に置かれた人々と真摯に向き合わねばなりません。

日常生活をフィールドとしている介護福祉士の仕事は「言葉にできないもの」との遭遇が日常茶飯事であり、それから逃れられることはないのです。だから介護福祉士には、非言語的なものを感じ取る力、つまり「感性」が必要なのです。そこに感性がなければ冷ややかなうわべだけの援助になってしまいます。介護福祉士とは豊かな「感性」の求められる職業であることを忘れてはいけません。

仕事へのモチベーションを保つ方法をよく問われます。それは単純です。まずモチベーションを上げたいと思うことです。

高校の頃、部活で、「勝つため」「上手くなるため」に「情熱」と「時間」を費やし、困難を乗り越えて頑張ったのはすべて自分のため。あれこそがプロ意識の源泉ではないでしょうか？

最後にひと言。「愚痴を言いたいときもある。言い訳したいときもある。不平不満を並べたいときもある。けれども・・・ニッコリ笑って『ありがとうございます』それが、大人の修行なのです」。（要約）

■理学療法学科

相手に伝わる発表・プレゼンの技術



講師 **飯田 英明** さん

有限会社 メディアハウス A&S
取締役

限られた情報の中で、自分とは異なる考えを相手に理解してもらうために、発表・プレゼンでは情報に優先順位をつけるとともに、提示材料にはなるべく分かりやすいものを選ぶことが大切です。相手に関心を持ってもらうためにはどんな情報が必要なのか、それをどのように理解・判断してほしいのかを考えて準備しましょう。

スライド制作ではまず基本文字サイズを決めます。そして使う言葉は、相手が「理解できる」ではなく、「使っている」を基準に選びます。

次に、1枚のスライドは30秒から1分間で、時間に余裕のある場合でも2分程度までとします。長い時間見せられれば視覚的に飽きてしまいますし、短時間切り替えれば、せわしない印象を与えたり、理解が未消化になったりします。複雑な内容は、図式を使って伝わりやすさを心がけましょう。





繰り返しになりますが、情報は本当に必要なものだけに絞ってください。関連があるからと、あれもこれも盛りだくさんになれば、限られた時間で内容を理解することができなくなってしまいます。余計なものを捨て去って、理解しやすい見せ方や表現の仕方を決めてください。（要約）

■保育福祉学科

音楽療法の基礎



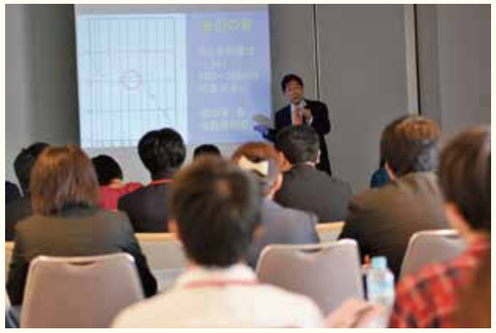
講師 **板東 浩** さん

日本音楽療法学会四国支部 支部長

音楽療法の定義は、「心身の障がいの軽減・回復、機能の維持・改善、生活の質の向上、問題となる行動の変容などに向けて、音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、音楽を意図的、計画的に使用すること」です。

音楽療法は、能動的音楽療法と受容的音楽療法に分類されます。能動的とは、歌ったり演奏したりすることであり、受容的とは、受け身で音楽を聴取することです。音楽療法が行われているフィールドでは、様々な対象者（クライアント）に応じたセッションが行われます。理想は個人セッション（1人を対象）ですが、現実にはグループセッション（多人数）の場合が多いです。音楽療法を適応できる対象者は①発達上の何らかの障がい②心理的葛藤やストレスによる心身症③身体的機能障がい④生活習慣や習癖にもとづく障がい⑤人格障がい⑥精神障がい⑦社会生活上の不適応⑧老化現象による日常生活上の困難⑨何らかの不全感、無力感、苦痛、不快感⑩治療困難な疾患による不安、抑うつ感、焦燥感などを抱える人です。音楽療法は病院だけではなく、各種の施設で様々な目標や結果を達成するために活用されています。

音楽療法の現場で誰もが身体的・心理的にハッピーとなれるよう、祈っています。（要約）



■作業療法学科

最新のリンパ浮腫治療
上肢リンパ浮腫を中心



講師 **尾崎 福富** さん

日本脈管アプローチ研究所

圧倒的に女性に多いリンパ浮腫。痛みはないけれど、放置しておくと悪化します。感染症などの様々な合併症を伴い、精神的苦痛も大きい疾患です。発生率は少ないのですが、完治は期待できず、根気よくケアすることで楽にすることは可能です。

患者教育では、リンパ浮腫という病気について、手をかければ必ず改善するが、放置しておくと悪化する恐れがあることなどを、分り易いパンフレットを作成し知っていただくように努めています。

治療では、まず今以上に悪化させないために、徹底した皮膚管理により蜂窩織炎などの感染を予防します。就寝時は上肢や下肢を心臓より高くします。また、長時間（2～3時間）の立位や座位を防ぐとともに、少しでも歩いたり、肩や腕をこまめに動かします。常に清潔を心がけ、外傷を防ぎ、必要以上に無理をしないことも大切です。

治療には、圧勾配を調節することで重力による浮腫の増大を防ぐ、圧迫療法が行われます。外部および内部からの筋ポンプ作用の圧迫により組織圧を高め、静脈およびリンパ還流を促進し、血管外への水分の透過性や間質液の貯留を抑制します。患肢の末梢部にかかる圧を最も強く、中枢部に向かって緩くすること。入浴時以外24時間圧迫を必要とするが、就寝時は活動時よりも緩めること。合っていない弾性着衣や無理な圧迫は、症状の悪化や炎症を招くので、痛みやしびれを感じる場合には着用を休止し、早めに医師の指導を受けることなどが原則です。

リンパ浮腫という病気について患者様に分かりやすく説明できるよう知識を持つとともに、複合的理学療法を理解し、少しでも施術できるように努力しましょう。そして、スキンケアを含む自己管理ができるよう援助することも必要です。1人でも多く、少しでも楽にしてあげたいとの思いを持って頑張りましょう。（要約）





「その人らしい生活」を考えながら

郡 一貴 さん　理学療法学科９期生

勤務先　医療法人 青風会　むくの木クリニック

2011年に本校を卒業し、健祥会グループへ入職。老人保健施設・デイケアでの勤務を経て、現在は専門学校に隣接したむくの木クリニックに勤めています。
老人保健施設・デイケアでは、老年期におけるリハビリテーションに携わっていました。卒業後すぐの私は、「どんどん負荷をかけて身体能力を改善させることがリハビリ」という固定概念があり、思うような成果が得られず悩んだこともありました。
そんな時に当時の施設長から「身体機能は現状維持でよい。その人がこの施設を終の住処として選んでよかったと思えるようなリハビリをしてくれ」とアドバイスを受けたことで、自分本位なリハビリテーションではなく、「その人らしい生活は何か」「どんな生活を望んでいるのか」「それを叶えるためには何が必要か」を改めて考えるようになりました。
その中でまず取り組んだのは、健祥会グループが掲げる5つのゼロ（おむつゼロ、骨折ゼロ、胃瘻ゼロ、拘束ゼロ、褥瘡ゼロ）の実践でした。初めてこれを耳にしたときにはとても無理な話だと考えていましたが、ケアマネジャー・介護・看護・栄養士など、多職種が連携して取り組むことで少しずつ成果が出るようになりました。
セラピストだけではこの目標を実現することはできず、他職種の力を借りることで初めて可能となっていきました。残念ながら私が勤務している間にすべてゼロにすることは叶いませんでしたが、このときの経験が大きな財産となって現在の私のリハビリテーションにつながっています。
昨年からは、現在の職場に移り、制度の違いに悪戦苦闘しながらも、施設で学んだ「その人らしい生活」を考えながらリハビリテーション業務に取り組んでいます。まだまだ勉強不足な部分もあり試行錯誤の毎日ですが「この病院（施設）を選んでよかった」と言ってもらえるよう日々の仕事に打ち込んでいます。



支えてくれる仲間に感謝して これからもチャレンジ

小森 和樹 さん　作業療法学科２期生

勤務先　医療法人　ひまわり会
デイケアセンター　ジラソーレ大松

2014年から、医療法人ひまわり会 デイケアセンター ジラソーレ大松で管理職を務めています。開設して間もない施設であり、今後さらにより良いサービスを提供するために様々な取り組みが必要であると感じており、少しずつ実践しています。
また、一般社団法人 徳島県作業療法士会（以下、士会）理事、日本作業療法士協会の生涯教育推進委員を務めるとともに、鳴門市の総合支援事業では災害リハに携わり、学会や研修会の企画・運営など、施設外の活動にも精力的に参画しています。
自分が何かをしようとするとき、または何かにチャレンジしようとするときには協力してくれる人や支えてくれる人が必要です。それが仲間です。仲間がいるからこそ様々な活動をすることができ、さらに新たな活動をしていこうと思わせてもらえます。職場でも士会でも、支えてくれる仲間に感謝しています。
これからも共に支えあいながら様々なことにチャレンジし、自己の成長やより良い職場づくり、士会の発展、作業療法の質向上に少しでも貢献し、より良いサービスの提供につなげていきたいと思います。



それぞれの現場で頑張る 4学科卒業生近況報告



大きな壁を乗り越えて、今

岸本 純一 さん　介護福祉学科１１期生

勤務先　社会福祉法人 健祥会　特別養護老人ホーム　笑顔

最初は軽い気持ちで入った介護の世界。専門学校からのアルバイト経験も含め、あっという間に10年程が経ちました。
初めのうちは楽しいことが多く、介護の良い部分ばかりに目がいきがちでしたが、経験を積むにつれ、目の前で人が亡くなっていくのをただ見届けることしかできないことへの無力感や苦しさを感じるようになりました。死を通して、命の重さと儚さという壁にぶつかったわけですが、そんなとき人生の大先輩が、耳を傾け寄り添うことの大切さ、私にもできることはあるということを教えてくださり、私を成長させてくださいました。命の現場では、ときには悩んだり落ち込んだりすることはありますが、利用者様、家族様、職場の仲間に励まされ支えられながら、奮闘の日々を送っています。介護は「ありがとう」をいただける職業だとよく言われますが、こちらこそ「ありがとう」の気持ちを伝えたくなる職業だとも思います。
今年度から介護福祉学科の非常勤講師として「生活支援技術」の授業を行い、施設では学生の実習指導しています。学生と関わりを持つ中で、専門学校への懐かしさや、楽しさ、嬉しさを感じつつ、学生に自分の技術や経験、介護の魅力を伝える場をいただいていることに感謝しています。
学生時代からの約10年を振り返り、先生方に厳しくも温かくご指導いただいたことがすべての始まりであったと改めて感じます。超高齢社会に突入し、ますます介護に向けられる期待は大きくなってきています。人としても成長し、利用者様から求められる人材となるよう努力したいと思います。





笑顔が絶えない関係づくり

長谷川 千秋 さん　保育福祉学科４期生

勤務先　社会福祉法人 健祥会　こまつしま健祥会認定こども園

卒業後、こまつしま健祥会認定こども園に就職して、はや2年が経ちました。1年目は2歳児クラスを、2年目は0歳児クラスを担任しました。0歳児の子どもたちを前に、最初は何をすべきか戸惑いましたが、手遊びや絵本の読み聞かせに子どもたちがニコッと笑顔になったときの嬉しさは今でも忘れません。子どもたちの可愛い笑顔は、不安だった私の気持ちを安心へと導いてくれました。
また、「おいで」と手を伸ばすと、一生懸命ハイハイしてくる愛らしい姿が、今ではしっかりした足取りでいろんなことに興味を持ちながら園庭を歩く姿へと成長し、とても頼もしく感じています。
子どもたちと毎日を過ごしていると、保育者との信頼関係の大切さを実感します。例えば同じ抱っこをするにしても、クラス担任と他のクラスの保育者では、子どもの安心感が違います。泣いている子どもを抱っこしたとき、私の胸にピタッとくっついてくれると嬉しくなります。このあたたかさが信頼関係、お互いの安心なんですよね。
大切な乳児期です。一人ひとりの子どもたちのよりよい成長発達をめざして、安心で居心地のよい環境と笑顔が絶えない関係（愛着関係）をつくるために頑張っていきたいと思います。まだまだ未熟で分からないことだらけの私、心が折れそうになったときには、園長先生や先輩方にアドバイスをいただきながら、何よりも子どもの笑顔から素敵なパワーをもらっています。これからも努力を惜しまず、さらに高い専門知識を身につけ、保育士として自分を磨いていきたいと思います。



同窓会勉強会報告

「卒業後も勉強や語り合いの場がほしい」との声を受けてスタートした同窓会勉強会。
今年度は保育福祉学科、作業療法学科でそれぞれ2回、卒業生に外部講師も交えて、実施されました。

保育福祉学科

2016年6月11日(土)　18:30〜20:30
実践発表「4年間の保育実践をとおして」
●講師:森　圭吾さん(とくしま健祥会保育園)
　　保育福祉学科2期生
参加:13名

保育士としての現場での4年間の実践について、様々なエピソードを交えながらお話していただきました。参加者からは共感の声があがるとともに、活発な意見交換が行われ、「保育とは」「保育士とは」を考えさせられる機会になりました。日々の積み重ねが、いかに大事であるかを感じた勉強会でした。

2016年11月12日(土)　17:30〜19:30
発達障がい児のこだわりについて
●講師:岩嵜　伸浩さん(国府支援学校)
●参加:16名

特別支援教育を必要とする幼児・児童・生徒が増加傾向にあると指摘されています。特に発達障がいをはじめ、育ちに影響を与える様々な問題が深刻化し、早期の発見や支援の必要性・重要性が高まってきています。今、正しい知識を持ち、適切な支援を実践することが私たち保育士にも求められていることから、発達障がい児の基本的な属性と対応法について、現場での事例を交えながらお話いただきました。私たち保育者は、すべての子どもがひとりの人格のある存在であることを大前提として成長を育んでいかなくてはならないと胸に刻みました。

作業療法学科

2016年5月16日(月)　19:00〜20:30
地域包括ケアリーダーについて
●講師:国清　篤志さん(小松島病院)
　　作業療法学科9期生
●参加:15名

クライアントが住み慣れた地域で自分らしい生活を続けていくことをめざして提供される地域包括ケア。その中で作業療法士が担うべき役割について、現場での実践からの伝達研修を行いました。クライアントの人生という大きな視座で、作業療法の役割を考えるよい機会になりました。

2016年11月9日(水)　19:00〜20:30
生活行為向上マネジメントについて
(概要、症例発表など)
●講師:村上　義和さん(老人保健施設 ロイヤルヘルスケア)
　　作業療法学科9期生
●参加:10名

生活行為向上マネジメントとは、クライアントが生活するうえで、やってみたいが難しいことや、もっとうまくできるようになりたいことを支援する作業療法の手法です。実際の症例について発表し、マネジメントの方法論や可能性について、活発に意見交換しました。



専門職として常に進化し続けるために！
「学び」を支える同窓会でありたい

卒業生がナビゲーター
オープンキャンパス
2016年7月30日(土)

各学科卒業生がナビゲーターとなってオープンキャンパスが開催されました。当日、午前10時スタート。学校長挨拶、同窓会会長挨拶(代理:大前博司副会長)に続いて、4学科ごとに学科紹介&体験が行なわれ、昼食は、学生会館で。参加者と卒業生が和やかに談笑しながら食事をともにし、学校とのつながりを紡ぎました。

■介護福祉学科　開催場所:1号館介護実習室

【ナビゲーター】
山根 正大さん(16期生)　若宮の里グループホーム
櫻井 祥子さん(18期生)　グループホーム 濃姫
樫森 史也さん(18期生)　特別養護老人ホーム 緑風会チロル
遠藤 春香先生(介護福祉学科)

●学科・仕事の説明
「介護の仕事っていいな！」
●学科体験
介護福祉学科 遠藤先生と3人のナビゲーターによる
「負担のない介護」体験
・スライディングシート・ボードや
モジュール型車椅子を使っての移乗・移動介助体験

山根さんからはグループホームの様子や介護職の仕事について、櫻井さんからは学校での学びや現場での3年間の経験について、樫森さんからは現場の様子や地域のことについて、スライドで学校や現場の様子を紹介しながらわかりやすく説明していただきました。
学科体験では、同窓生の丁寧な指導により、参加者も移乗介助を体験。介護を少し身近に感じていただけたようです。
学生会館で昼食をともにする頃には、参加者と卒業生が親しく会話を交わせるようになっており、有意義な時間だったと好評のオープンキャンパスでした。




■保育福祉学科　開催場所:1号館 講堂

【ナビゲーター】
高井 あゆみさん(1期生)　とくしま健祥会保育園
岡田 梨奈さん　(4期生)　とくしま健祥会保育園
園木 夏江先生　(保育福祉学科)



●学科説明　保育福祉学科 園木 夏江先生
●学科体験
①手遊び　②保育園の一日の様子　③うちわ作り
④バルーン　⑤園木先生による触れ合い遊び

学科体験の導入は、健祥会4園の子どもたちが大好きな手遊びの定番メニューです。“何故、手遊びをするのだろう“という保育士からの問いかけに、その意味を改めて考えながら、一緒に歌い、手を動かし、幼い頃を思い出して懐かしんだり。はじめの緊張も少しずつ溶け、体験を通して、やりがいや子どもと関わる楽しさなどを感じてくれたようでした。昼食時、積極的にナビゲーターに質問する姿が頼もしく感じられました。



■理学療法学科　開催場所:本館 機能訓練室

【ナビゲーター】
原口 和也さん(1期生)　加藤整形外科クリニック
加藤 志帆さん(5期生)　特定非営利活動法人 あかねの和
佐賀 智種さん(6期生)　鴨島病院
村上 直也さん(12期生)　徳島赤十字病院

●学科説明　加藤 志帆さん
●学科体験　講義
・「小児のリハビリテーション」　加藤 志帆さん
・「スポーツリハビリテーション」　原口 和也さん
・「生活期のリハビリテーション」　佐賀 智種さん
・「急性期疾患のリハビリテーション」　村上 直也さん

高い技術を持つ4人の卒業生が講師となって、理学療法士をめざす参加者に、仕事の職域と仕事内容をミニ講義。それぞれの分野について、分かりやすくお話くださいました。参加者は理学療法士という職業について具体的にイメージできたようでした。




■作業療法学科　開催場所:本館 2階手工芸室

【ナビゲーター】
大前 博司さん　(9期生)　兼松病院
武市 薫さん　(9期生)　兼松病院
長谷部 有哉さん(5期生)　小松島リハビリテーションクリニック
村上 義和さん　(9期生)　老人保健施設ロイヤルヘルスケア



●学科説明　武市 薫さん
・DVD「私の選択　作業療法士をめざす」
●学科体験
・性格検査(10分程度)
・苔玉作り
・自助具体験(既存のものを使用)

臨床場面の写真や動画を使って、疾患と治療についてわかりやすく説明。作業療法士になるために必要な知識や学内での勉強の大事さを一人ひとりに丁寧に伝えました。参加者は楽しい雰囲気の中で作業療法や自助具を体験し、仕事への理解を深めてくれたようでした。



School Festival
TOPICS
- 学校祭 -

BE TOGETHER AS ONE!!

～絆を深め合う未来のために～

第21回 徳島健祥会福祉専門学校学校祭





学校生活の中でも特に思い出に刻まれる学校祭。
今年も、学科ごとのクラスイベントで学習の内容や成果を紹介するとともに、
マッサージ体験やスタンプラリーなどの様々なアトラクションで、
ご高齢の方から子どもさんまでたくさんの地域の皆さんに楽しんでいただくことができました。



■SUPER LIVE

奥 華子

10月29日(土)

劇場版アニメーション「時をかける少女」の主題歌「ガーネット」を歌って注目を集めたシンガーソングライラー奥華子さんが登場。澄んだ歌声の弾き語りで、ヒットソングを交え数々の恋の歌を披露し、最後にはステージを降り、観客と一つになって歌うという感動のライブでした。



■文化講演会・映画上演会

講師 犬童 一利 監督

「つむぐもの」

10月30日(日)

人と人のつながりの素晴らしさ、介護の現実と魅力を描いた映画「つむぐもの」を上映。介護を通して人と人が深い絆を育み、かけがえのない存在になっていく過程を、介護のもつ厳しい現実とともにユーモアとペーソスを交えて描いた物語に、会場は大きな感動に包まれました。
鑑賞後には、監督犬童一利さん、NPO法人Ubdobe代表理事岡勇樹さん、同法人理事中浜崇之さんと学校祭実行委員3名によるトークセッションが行われ、映画について、介護について、社会について、それぞれ立場からの考えを語り合いました。犬飼監督は「この映画を、まだ介護に出会ってない人には今日を介護に向き合うきっかけに、現場の介護職の皆さんには初心を取り戻すきかっけにしてほしい」と結びました。











NEW FACE | 新教員紹介

命に向き合う現場から、学生の人生に向き合う現場へ



理学療法学科
隅田 奈美

理学療法学科８期生として本校を卒業後、2010 年４月に健祥会グループに入職。デイサービスセンター、老人保健施設での勤務後、2016 年４月に理学療法学科の教員として母校に帰ってきました。母校で教壇に立つなど思いも寄らぬ展開でしたが、大変光栄に思っています。
新米教員として、教育の難しさを感じるとともに楽しさも学んでいます。これまで福祉の現場で利用者様の笑顔のために頑張ってきたように、学生と笑顔で関わりあいながら、現場で培ってきた経験と技術に新しい知識や情報をプラスしつつ、より現場に近い実践的な教育を心がけています。
高齢者福祉の世界では今、リハビリテーションのニーズが非常に高まっています。リハビリ職には、高い専門性のみならず、あらゆるニーズに応えられる幅広い知識、社会性と人間力が必要とされます。指導する側もそれらを自ら身につけ、学生指導に活かさなければなりません。命に向き合う現場から、今度は学生の人生に向き合う現場へ。求められるものも大きく変わり、戸惑いもありますが、良き人材の育成に少しでも貢献できるよう、一つひとつ精進してまいります。学生にいつか「理学療法士になって良かった、徳島健祥会福祉専門学校の卒業生で良かった」と思ってもらえるよう、夢と希望を与えられる教員をめざして頑張ります！



平成28年度 徳島健祥会福祉専門学校 同窓会総会報告

平成28年度の同窓会総会、講演会、４学科講習会が、徳島グランヴィリオホテルで開催されました。総会では、●平成27年度の事業報告・会計報告 ●平成28年度会計予算（案）・事業計画（案） ●役員改選が上程され、すべてが滞りなく承認されました。

■徳島健祥会福祉専門学校同窓会役員

役　名	氏　　名
会　長	藤原 慶治（介護1期）
副会長	池村 健（理学3期）　大前 博司（作業9期） 武田 英二（校長）
幹　事	乾 静香（介護14期）　多田 裕介（保福1期） 竹内 大介（理学1期）　渡部 寛生（理学11期） 長谷部 有哉（作業5期）　武市 薫（作業9期）

編集後記

今年の同窓会総会は創立20周年を記念し、特別講演・講習会ともに著名な先生方をお招きして開催しました。また、初めて４学科の在校生も参加。総数300名余が集い、最先端のお話に耳を傾けました。在校生も同窓会活動に参加することにより先輩方との交流をより深めることができたと思います。
同窓会会員数は2400名を超えました。同窓会が、全国で活躍する皆さん方のネットワークの要となって、それぞれの専門性に資することができますよう、活動をさらに充実させてまいります。
少子化により大学も専門学校も苦戦しています。本校への志願者・入学者も減少傾向です。会員の皆さんには、入学者のご紹介などでご協力をいただいていますが、どうかより一層のご支援・ご協力をお願いいたします。また学校へのご意見ご助言なども忌憚なくお寄せください。
最後になりましたが、会報誌制作にあたりご協力をいただきました皆様方に心より感謝申しあげます。

事務局



社会福祉法人 健祥会
徳島健祥会福祉専門学校

徳島健祥会福祉専門学校の最新情報は
ウェブサイトよりご覧いただけます
www.kensyokai.ac.jp

徳島健祥会福祉専門学校 同窓会会報 | ウィル

発行元　徳島健祥会福祉専門学校同窓会　　発行日　2017 年 3 月 1 日

〒779-3105 徳島市国府町東高輪　TEL088-642-9666　info@kensyokai.ac.jp